

さわやかに まごころをこめて

さわやか信用金庫は、日本経済の基盤を成す
中小企業と地域の人々をとことん金融面で支えてまいります。
地域に密着した金融に徹し地域の皆さまと運命を共にしてまいります。
さわやかに まごころをこめて 常に良質な
金融商品・サービスを提供し続けてまいります。
さわやかに まごころをこめて お客さま志向の経営に徹してまいります。

● ごあいさつ

日頃、皆さまには格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。本年も当金庫に対するご理解をより一層深めていただきたく、ディスクロージャー誌「SAWAYAKA SHINKIN REPORT 2022」を作成しました。ぜひ、ご一読くださいますようお願い申し上げます。

2021年度は、年度当初から新型コロナウイルス感染症対策として緊急事態宣言とまん延防止等重点措置が繰り返し発令され、経済活動が停滞しました。10月に入り緊急事態宣言は解除され明るい兆しが見え始めましたが、年末には変異株であるオミクロン株の流行が始まり、本年1月中旬からは急拡大し個人消費の低迷等により景気回復に再び水をさされました。加えてロシアのウクライナ侵攻に対する欧米側の金融・経済面での制裁、さらに期末にかけては中国経済の減速懸念や急速な円安により、供給面の混乱や資源高が進み、先行きの不透明感が高まりました。

このような状況の中、「第七次さわやか3ヵ年計画」の初年度である2021年度の業績につきましては、前3ヵ年計画で定着した「新三位一体改革（意識改革、新戦略の実施、仕組みの変革）」を深化し、「持続可能なビジネスモデル」をステップアップさせることを最重要課題として取り組んだ結果、預金残高は1兆6,048億円、貸出金残高は9,235億円、収益面では、経常利益は43億円、当期純利益は42億円となりました。

今後、アフターコロナの新常態における行動変容に加え、コロナ禍前からのトレンドである産業・社会のデジタル化の進化やSDGs・ESGへの国際的な取り組みが本格化することが予想されます。当金庫といたしましては、全役職員一丸となりコンプライアンス遵守に努め、地域金融機関としての使命を果たすべく、お取引先の本業支援等、金融機能の発揮に努めると同時に、金融環境を含めた大きな社会環境の変化に対し、様々な分野での対応を強化してまいります。

どうぞ、今後とも変わらぬご支援ご愛顧を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

2022年7月



目次

ごあいさつ	1
基本理念・経営理念	3
役員・組織図	4
さわやか信用金庫の考え方	5
業績ハイライト	7
お客さま支援	9
SDGsへの取り組み	20
地域とともに	21
総代会	23
店舗一覧	25

理事長
篠 啓友

基本理念・経営理念

基本理念と経営理念は、さわやか信用金庫が目指すものを簡明に表現したもので、その実現には「効率性」「透明性」「スピード」をキーワードとしております。

基本理念は、対外的に、言わばお客さまに対して当金庫の経営姿勢、金融機関としてのあり方を明示したものです。

経営理念は、その基本理念を実現していくうえで、当金庫役職員がお客さまから絶大なる信頼を寄せていただけるよう、必須要件として取り組んでいかなければならない目標を掲げております。

そして、その目標を達成し、地域のお客さまに選ばれ、地域になくてはならない金融機関となるために、当金庫は「新三位一体改革」に取り組んでおります。

- 基本理念**
- 1 日本経済の基盤を成す中小企業並びに地域の人々をとことん金融面で支える金融機関であること
 - 2 地域に密着し、地域と運命を共にする金融機関であること
 - 3 使い勝手のよい、良質な金融商品・サービスを提供し続ける金融機関であること

- 経営理念**
- 1 多様化するニーズに十分応え得る体力と、弾力性に富む強固な財務体質の構築
 - 2 役職員の能力向上と旺盛な勤務意欲の実現
 - 3 経営（組織と運営）の効率化と透明性の確立

当金庫の概要(2022年3月31日)

所在地	本部：東京都大田区萩中2丁目2番1号 本店：東京都港区三田5丁目21番5号	営業地区	東京都 23区、八王子市、立川市、武蔵野市、三鷹市、府中市、昭島市、調布市、町田市、小金井市、小平市、日野市、国分寺市、国立市、西東京市、狛江市、多摩市、稲城市
創立	1926年(大正15年)11月11日	神奈川県	横浜市：鶴見区、神奈川区、港北区、緑区、青葉区、都筑区
出資金	142億円	川崎市	川崎市：全区
預金量	1兆6,048億円	相模原市	相模原市(旧津久井町、旧相模湖町、旧藤野町、旧城山町を除く)
融資量	9,235億円		
店舗数	63店舗(うち8出張所)		
店外ATM	16カ所		
役職員数	981名		

役員・組織図

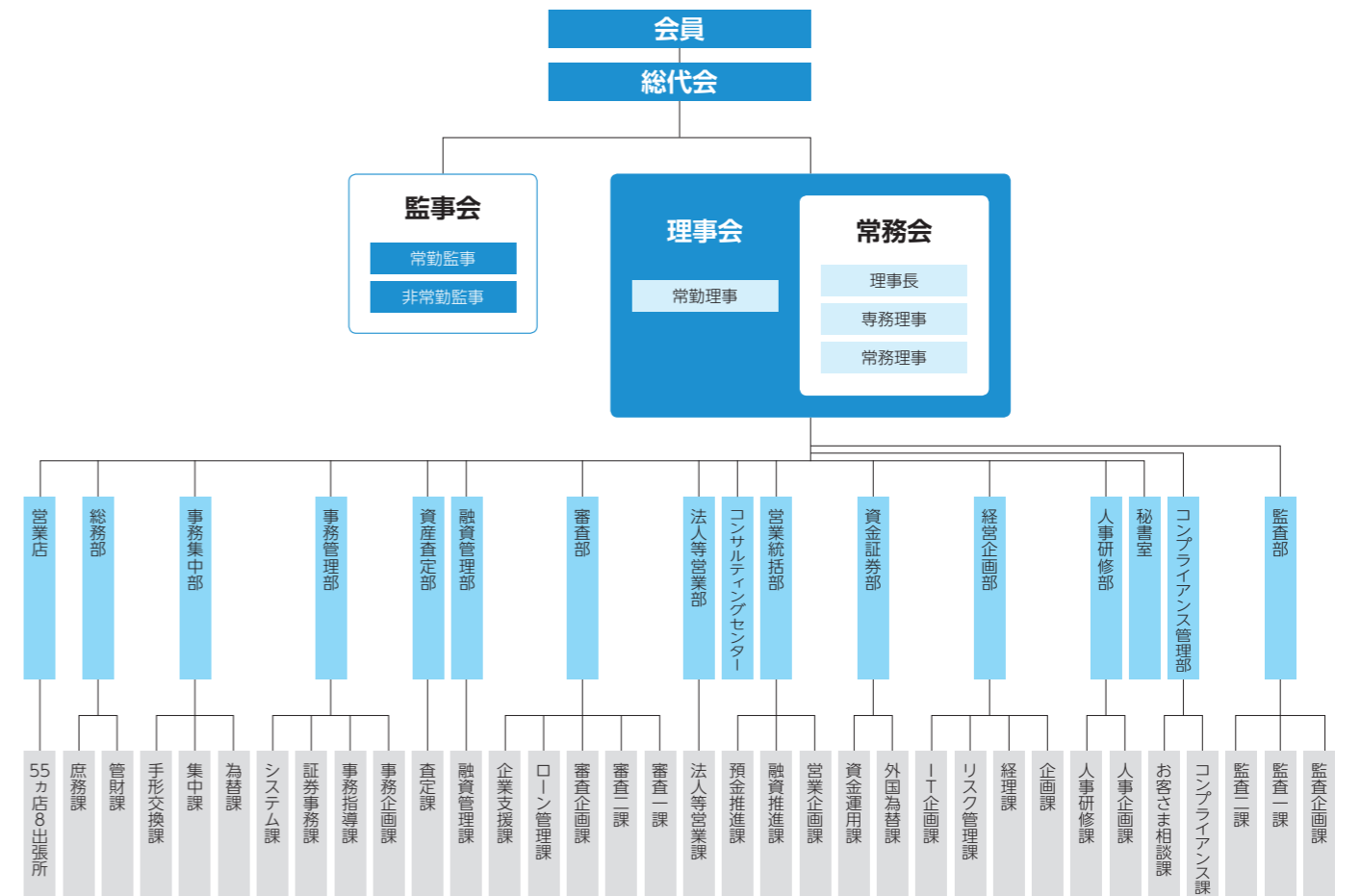
今後とも、さわやか信用金庫を宜しくお願いいたします。

役員一覧(2022年7月1日)



※1 常務理事 其田修一は、信用金庫業界の「総代会の機能向上策等に関する業界申し合わせ」に基づく職員外理事であります。
 ※2 非常勤監事 廣田哲治は、信用金庫法第32条第5項に定める員外監事であります。

組織図(2022年7月1日)



● さわやか信用金庫の考え方

基本理念および経営理念に基づき、お客さまが抱える課題を解決するために徹底的な伴走支援をしていくことを使命と考え、地域においてオンリーワンの金庫を目指していきます。この考え方を実現するために、当金庫では2021年度より「第七次さわやか3ヵ年計画」に取り組んでおります。

第七次さわやか 3ヵ年計画の最終目標

コア業務純益^{※1}… 50億円以上
OHR^{※2}…………… 75%以下
総資金利鞘^{※3}…… 0.20%以上
自己資本比率^{※4}… 9.00%以上

<用語説明>

- ※1 コア業務純益: 一時的な要因に左右されない基礎的な収益力を示す指標です。
- ※2 OHR(Over Head Ratio): 業務粗利益に対する経費の比率で、金庫業務の効率性を示す指標です。
- ※3 総資金利鞘: 「資金運用利回」から「資金調達原価率」を差し引いたもので、運用資金全体の収益力を示す指標です。
- ※4 自己資本比率: 出資金や内部留保(利益の積立額)などの金額を、貸出金等の各種資産金額にリスク・ウェイト(資産毎の掛け目・損失可能性の比率)を乗じて算出した金額(リスク・アセット)で割ったもので、経営の健全性・安全性を示す指標です。

取り巻く環境の変化

少子高齢化、
人口減少

新型
コロナウイルスの
影響

SDGs・
DXの進展

さわやか信用金庫

課題解決のために徹底的な伴走支援



地域のお客さま

～お気軽にご相談ください～



第七次さわやか3ヵ年計画

(2021年度～2023年度)

第七次さわやか3ヵ年計画 新三位一体改革

～セカンドステージ～

1

意識改革

使命の認識と
環境変化への即応

2

新戦略の実施

課題解決型営業
地域 **No.1** を指向

3

仕組みの変革

持続可能なビジネスモデルの
ステップアップ

業績ハイライト

2022年3月期の預金量は前期より226億円増加し、融資量は32億円減少しました。

2022年3月期預金量

1兆6,048億円

都内23信用金庫中 第8位
全国254信用金庫中 第24位

2022年3月期融資量

9,235億円

都内23信用金庫中 第8位
全国254信用金庫中 第22位

預金量



融資量



コア業務純益



自己資本額・自己資本比率



不良債権額・不良債権比率



貸借対照表

2022年3月31日現在 単位:百万円

科目	金額	科目	金額
(資産の部)		(負債の部)	
現金預金	20,426	預金積金	1,604,855
預け金	492,149	当座預金	61,891
有価証券	336,370	普通預金	810,213
国債	57,871	貯蓄預金	7,497
地方債	95,419	通知預金	1,672
株式	79,660	定期預金	674,375
その他の証券	4,466	定期積金	37,181
貸出金	923,564	その他の預金	12,023
割引手形	7,282	借入金	119,165
手形貸付	40,094	借入金	119,165
証書貸付	854,506	コールマネー	231
当座貸越	21,681	外国為替	7
外国為替	932	売渡外国為替	0
外国他店預け	932	未払外国為替	6
その他資産	10,372	その他負債	7,346
未決済為替貸	589	未決済為替借	781
信金中金出資	6,316	未払費用	364
未収収益	2,246	給付補填備金	20
金融派生商品	8	未払法人税等	1,080
その他の資産	1,210	前受収益	365
有形固定資産	16,326	払戻未済金	187
建物	5,466	職員預り金	635
土地	9,479	金融派生商品	2,436
リース資産	796	リース債務	840
その他の有形固定資産	584	資産除去債務	86
無形固定資産	650	その他の負債	547
ソフトウェア	231	賞与引当金	596
リース資産	28	退職給付引当金	224
その他の無形固定資産	390	役員退職慰労引当金	302
繰延税金資産	3,402	睡眠預金払戻損失引当金	91
債務保証見返	8,509	偶発損失引当金	191
貸倒引当金	△3,890	再評価に係る繰延税金負債	1,004
	(△2,761)	債務保証	8,509
		負債の部合計	1,742,527
		(純資産の部)	
		出資金	14,204
		普通出資金	14,204
		利益剰余金	53,516
		利益準備金	10,871
		その他利益剰余金	42,645
		特別積立金	16,654
		(固定資産圧縮積立金)	534
		(その他の目的積立金)	6,177
		当期末処分剰余金	25,990
		処分未済持分	△21
		会員勘定合計	67,700
		その他有価証券評価差額金	△1,755
		土地再評価差額金	342
		評価・換算差額等合計	△1,412
		純資産の部合計	66,287
資産の部合計	1,808,815	負債及び純資産の部合計	1,808,815

損益計算書

2022年3月期 単位:百万円

科目	金額
経常収益	22,769
資金運用収益	18,290
貸出金利息	14,453
預け金利息	644
有価証券利息配当金	3,022
その他の受入利息	170
役員取引等収益	1,941
受入為替手数料	980
その他の役員収益	960
その他業務収益	1,685
外国為替売買益	1,549
国債等債券売却益	51
その他の業務収益	84
その他経常収益	851
償却債権取立益	133
株式等売却益	707
その他の経常収益	11
経常費用	18,426
資金調達費用	270
預金利息	197
給付補填備金繰入額	3
借入金利息	66
コールマネー利息	0
その他の支払利息	3
役員取引等費用	847
支払為替手数料	261
その他の役員費用	586
その他業務費用	1,166
国債等債券償還損	225
金融派生商品費用	888
その他の業務費用	53
経費	14,843
人件費	8,607
物件費	5,526
税金	709
その他経常費用	1,297
貸倒引当金繰入額	842
貸出金償却	100
株式等売却損	145
その他の経常費用	209
経常利益	4,343
特別利益	1
固定資産処分益	1
特別損失	50
固定資産処分損	50
税引前当期純利益	4,294
法人税、住民税及び事業税	1,308
法人税等調整額	△1,268
法人税等合計	39
当期純利益	4,254
繰越金(当期首残高)	21,732
圧縮積立金取崩額	3
当期末処分剰余金	25,990